

SDGsへの取り組み

近年、国連の提示するSDGsが注目を浴びています。SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、2030年までに達成すべき国際社会共通の目標です。

私たちも5つのゴールの課題解決の一助となるべく、社会福祉という分野の中で、皆さまとともにさまざまな社会課題を解決していきたいと考えています。

- ゴール1： 貧困をなくそう
- ゴール3： すべての人に健康と福祉を
- ゴール4： 質の高い教育をみんなに
- ゴール16： 平和と公正をすべての人に
- ゴール17： パートナーシップで目標を達成しよう



■■企業の皆さまへ■■

社会的養護を必要とする母子や高齢者、子どもたちへのご支援は寄付だけに限らず、住居として使用している施設内設備のメンテナンスや、本やおもちゃなどの物品提供、子どもたちの体験型活動のご提供など多岐にわたります。皆さまの社会貢献ポリシーに応じて柔軟に対応しますので、お気軽にお問い合わせください。

ご支援の方法

寄付で応援

共生会では、広くご寄付のお願いをしています。共生会が運営する各施設で暮らす方々、また社会に巣立とうとする子どもたちを応援してください。お振込みやクレジットカード決済、また施設ごとへのご支援も受け付けておりますので、是非ご相談ください。



物品で応援

電化製品や家具・オフィス用品、車輛などの施設設備のほか、食品や子どもたちの遊具、医療消耗品など、さまざまな形のご協力を受け付けています。金銭以外のご支援方法について、是非ご相談ください。※ウェブサイト「欲しいものリスト」を公開しています。



遺贈寄付



大切な資産やその一部について遺贈寄付のご相談を受け付けています。遺贈寄付には公的な書類の作成などがありますので、専門機関をご紹介します。お気軽にご相談ください。

※当法人へのご寄付は、確定申告時に申告することで税の優遇を受けることができます。



⇐ 寄付についてはこちら

 社会福祉法人共生会

〒124-0014 東京都葛飾区東四つ木1-12-17
TEL：03-5671-1280 FAX：03-5671-1285
Mail：info@swc-kyouseikai.org ホームページ：https://www.kyouseikai.com/



社会福祉法人共生会

2023年度 年次報告書



ポストコロナの支え合い：多様性を尊重し、共に生きる

2023年、私たちは新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機を乗り越え、新たな時代を歩み始めました。各事業所では、制限されていた活動、行事が再開され、コロナ前の姿を取り戻しつつあります。しかし、このような変化の中で、新たな社会課題も浮き彫りになりました。

多様な視点を受け入れる

職場においては、コロナ以前から働いていた職員と、コロナ禍中に新たに加入した職員の間で、仕事に対する認識や価値観の違いが生じていると感じます。例えば、コロナ前、中、後における職場の変化に対し、コロナ前を知る職員は「仕事が元に戻った」に対して、コロナ渦中に入職の職員は「仕事が増えた」と感じるようです。これは決してどちらか一方の認識が間違っているということではなく、それぞれの経験、過ごした社会情勢に基づいた異なる視点であると考えています。

共生会が掲げる「あなたらしさ、わたしらしさを大切に」というモットーは、まさにこの多様性を尊重する姿勢を表していると言えるでしょう。先輩職員と後輩職員が互いの物語＝ナラティブに耳を傾け、支え合いながら共に成長していく姿は、まさにこのモットーの実践でした。

社会課題の顕在化と新たな担い手

コロナ禍は、学校、地域社会、職場などにおける人間関係の希薄化を加速させ、潜在的な孤独・孤立が顕在化しました。これは、新たな社会課題として解決すべき重要課題です。

一方、このような社会情勢の中を過ごしてきた若者世代には、より強い社会貢献意識が見られると言われています。若手職員が、自身の経験や価値観に基づいた新しい視点やアイデアを持ち込み、社会の新たな担い手として、法人に、社会に変化をもたらしてくれることと期待しています。

共に支え合い、共に成長する

地域の皆様、支援者の皆様、関係機関の皆様と協働し、多様な価値観を受け入れ、互いに学び合いながら、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指してまいります。

理事長 福島 俊彦

これまでの実践を振り返って

共生会に入職し、児童養護施設や学童保育クラブで36年間、子どもたちの成長を共に歩んできました。そして2023年11月には体調を崩し、人生初の長期入院を経験しました。

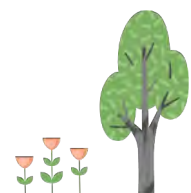
支援される側の視点で、入所児童の気持ちに寄り添う

入院生活を通して、初めて支援される側となり、入所児童が抱える不安や葛藤をほんの少しですが身をもって体感することができました。これは、単に自身の体調不良を経験したというだけでなく、対人援助職としての実践を内省する貴重な機会にもなりました。

法人の理念と共に、これからも子どもたちの未来を支える

この経験を踏まえ、今後も共生会の理念である「困っている人と共に生きる」を胸に、子どもたちの未来を支える存在でありたいと考えております。

業務施行理事 井上 伸之



児童養護施設

希望の家

松風荘

伊豆長岡学園

江戸川つむぎの家

母子生活支援施設

ふたばホーム

江戸川区そよ風松島荘

中野区さつき寮

認可保育所
(夜間保育)

白鳥ふたば保育園

特別養護老人ホーム

東四つ木ほほえみの里

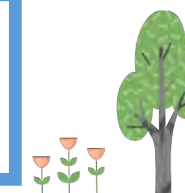
地域包括支援
センター

地域包括支援センター
東四つ木・立石分室

学童保育クラブ

《千代田区・アフタースクール》
さくら／さくら第二
こうじ町

《葛飾区・学童クラブ》
松上／第二松上
上小松／第二上小松
木根川



■児童養護施設「希望の家」

高齢児合宿研修が50回（年）目の節目を迎えました

高齢児合宿研修とは中高生向けの自立支援の取り組みです。50年前は子どもたちに高校進学を実現してもらう目的でしたが、現在は、自分らしく生きていくために自らと向き合う時間となっています。記念すべき50回目は心身のリフレッシュやリラクゼーションを目的に、自分に合った精油を作るという特別企画も行いました。

■児童養護施設「松風荘」

再スタートを切った一年

コロナ禍から日常生活を取り戻し、各拠点における長期休みの宿泊を伴う行事、施設全員参加で取り組む全体行事などを行う事ができ、コロナ以前の取り組みに近づいていく事ができた1年でした。

■児童養護施設「伊豆長岡学園」

各種行事が充実した一年でした

コロナ禍では行事を自粛していましたが、4年ぶりに各種行事を実施することができました。外食行事、宿泊行事、感謝祭、餅つき会等、子どもたちにとって楽しい行事を体験することができ、子どもたちの笑顔を沢山見ることができた一年でした。

■児童養護施設「江戸川つむぎの家」

成長

子どもが補助無し自転車を乗れるようになったり、やってみたい習い事に一人で通えるようになったりしました。また、施設開設後、初めて宿泊行事をユニットごとに行い、子どもたちと職員で楽しむことができました。



■母子生活支援施設「ふたばホーム」

繋がりが広がる安心の輪

コロナ禍で個別対応をしていた行事を、数年ぶりに全体で行うことができました。また、お母さん同士が繋がれる場としてイベント（ふたばカフェ）を4回開催しました。お母さんだけでなく、子ども同士の繋がりもでき、たくさんの笑顔が見られました。

■母子生活支援施設「江戸川区そよ風松島荘」

交流が深まった一年

職員みんなで試行錯誤しながらコロナ禍前と同様の規模での行事を再開しました。退所家庭もお誘いし、利用者同士の交流が多く見られました。お母さんとお子さんの笑顔をたくさん見ることができた一年でした。

■母子生活支援施設「中野区さつき寮」

交流の再開：日常と非日常の間

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、利用者同士や地域の方々との交流を再開しました。しかしコロナ禍が数年続いたことで、なにが日常で非日常か、なにをどう戻していけば良いのかと苦慮することも多かったです。同時に、これまでできなかった支援や行事ができるようになった喜びも多く、1からスタートしていく、そんな1年でした。

■認可保育園（夜間保育所）「白鳥ふたば保育園」

地域への架け橋第1歩

地域のお子さんとの触れ合い体験保育を始めました。また、1年生の子ども達を招待した親子レクリエーション、年長児の親子と1年生の親子の交流会も行いました。小さな1歩ですが、皆さんに喜んでいただけました。

■特別養護老人ホーム「東四つ木ほほえみの里」

■地域包括支援センター 東四つ木・立石分室

開設25周年 変化のはじまり

新型コロナウイルス感染症の5類への移行をきっかけに、特養は面会方法を変え、ボランティア活動の受入れを再開し、中川中学校の吹奏楽部による演奏会も行い、交流の機会が持てました。地域の行事が再開され、地域包括支援センター職員も積極的に参加しました。

■学童保育クラブ 千代田区・葛飾区

笑顔あふれる日常生活

新型コロナウイルスが5類に移行し、マスクを外して生活する場面が多くなりました。子どもたちの表情がはっきりとわかるようになり、笑顔あふれる生活が戻ってきました。



野菜の実験
「浮くかな？沈むかな？」
(白鳥ふたば保育園)



初めての書道体験
(中野区さつき寮)



職員手作りおやつ
(江戸川区そよ風松島荘)



リフレッシュ保育
(ふたばホーム)



運動会
(東四つ木ほほえみの里)



楽器演奏
(江戸川つむぎの家)



徒歩旅行
(伊豆長岡学園)



久しぶりの園内クリスマス会
(希望の家)



夏まつりのようす
(学童保育クラブ)

児童養護施設とは

児童福祉法に基づいて、乳児を除く保護者のいない児童、虐待されている児童、その他環境上養護を要する児童をお預かりして養護し、あわせて退所した子どもたちに対する相談、その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設です。

希望の家 東京都・葛飾区 定員：43名
 <ユニット2棟・グループホーム5か所>

希望の家はたくさんの方々に支えられながら成り立っている施設です。子どもを第一に考え、安心と安全が守られた、家庭的なあたたかい環境を提供できるよう、職員一同努めています。ショートステイ事業や家庭訪問型子育て支援事業、親子向けの講座提供（親子ふれあいサロンきぼう）等も行っています。

TOPICS

興津臨海行事が久しぶりに開催され、大いに楽しみました（企画・運営：ボランティアグループおもいつき）。



親子ふれあいサロンきぼうは、地域の親子向けにプログラムを行っています。年間258組の親子がご参加くださいました。



令和5年度 葛飾協働まちづくり表彰式にて区長より表彰いただきました。より一層、貢献できるよう精進して参ります。



松風荘 静岡県沼津市 定員：30名
 <本園・グループホーム3か所>

市街地を離れると海と山に囲まれた、のんびりとした環境で生活を送っています。本園12名、分園3か所18名が暖かな地域の方に支えられながら、日々過ごしています。第1分園が第2分園隣に新築移転した事により、本園と第3分園、第1分園と第2分園の、隣接する拠点2か所で相互協力しながら生活しています。

TOPICS

今年も高齢児合宿を行い、外部講師による講話や一昨年の卒園生2名からの体験談を話してもらいました。



秋行事で施設全体で沼津アルプス登山に挑戦しました。



支援者の方にも参加していただき年少児を中心にクリスマス会昼の部を行いました。



伊豆長岡学園 静岡県伊豆の国市 定員：48名
 <本園5ユニット・グループホーム2か所>

「大切にされていると実感できる場所」を理念の柱とし、「ここに来てよかった」「あなたに出会えてよかった」と子どもたちが実感できるような施設づくりを目指しています。都立施設から民間移譲となり17年の月日が経過し、地域の皆様やご支援者様に支えられた施設になってきました。

TOPICS

ご支援をいただき卒園記念として大阪旅行に行くことができました。思い出深い行事になりました。



感謝祭（バザー）を4年ぶりに実施することができました。ご支援をいただき誠にありがとうございました。



子どもたちと支援者の皆様とのふれあいが4年ぶりにできました（バーベキュー、職業体験等）。



江戸川つむぎの家 東京都・江戸川区 定員：24名
 <本園>

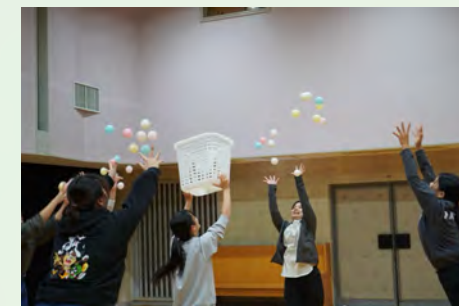
2歳から高校生まで幅広い年齢の子どもたちが幼稚園、小学校、中学校、高校に通いながら穏やかに日々楽しく生活できるように職員一同チーム支援を行っています。また、ショートステイ・トワイライト事業等を通して地域支援にも力を入れています。

TOPICS

開設3年目にして初めての宿泊行事を行いました。各ユニットで行き先を決めました。



若手職員がやってみたいチームビルディング研修を実際に立案から実施まで行いました。ステキな時間でした。



自主的にバンドやダンスグループを結成し、クリスマス音楽会や卒業や進級のお祝い発表会を開き、発表してくれました。



母子生活支援施設とは

児童福祉法に基づいて、18歳未満のお子さんのいる母子家庭等が生活できる施設です。母子の自立に向けて、子育てや生活のお手伝いをはじめ、退所した後もご相談に応じています。



ふたばホーム
ふたば学童・第二ふたば学童保育クラブ

東京都・葛飾区
 ふたばホーム：定員20世帯
 ふたば学童・第二ふたば学童保育クラブ：定員80名

お母さんと子どもたちがいつも笑顔で、安全で安心した生活ができることを大切にしているふたばホーム。ふたば学童保育クラブ、第二ふたば学童保育クラブを併設しており、地域の子育て支援を担えるように努めています。

■TOPICS

親子で八景島シーパラダイスに行きました！イルカショーをみたり、アトラクションに乗ったりと大満足の日でした。

寄贈品を配布する「ふたばパントリー」を開催。退所家庭や地域の方へもお声がけした所、多くの参加があり大盛況！

学童保育クラブでは東武動物公園へ遠足にいきました！間近で見る動物たちの迫力に驚き、子どもたちは大興奮でした。



江戸川区そよ風松島荘

東京都・江戸川区 定員：20世帯

利用者に寄り添い「大切にされている」と思えるような関わりを大切にしています。築54年が経ち共同部分が多い等の不便さがありますが、利用者の皆さんからアイデアを頂きながら、少しでも快適に生活ができるように工夫しています。

■TOPICS

地域のボランティアの方々をお招きしてエプロンシアター等を行って頂きました。親子で楽しむことができました。

地域の方にお借りしている畑で収穫体験をしました。親子で楽しみながら育てたカブと春菊を収穫しました。

初節句を迎えるお子さんのお祝いをしました。健やかな成長をお母さんと一緒に願いました。



中野区さつき寮

東京都・中野区 定員：19世帯

お母さんやお子さんそれぞれの想いに寄り添うさつき寮。家族全員が地域の中で安心して笑顔で暮らせるようにスタッフ全員でお手伝いをします。また、地域の子育て世帯へ向けて、ショートステイ事業や電話相談、ひとり親家庭向けのイベント開催等、多岐に渡った支援をしています。

■TOPICS

デイキャンプで高尾山に登りました。頂上までは残念ながら登れませんでした。みんなで気持ちの良い疲れを共有しました。

夏祭りでは、地域の方や退所された方にも来て頂き、以前の盛り上がりがありました。宝すくいが特に人気でした。

苔玉を動物のように飾って育てる「モスペット作り」では、思い思いの作品を親子で作っていました。





子どもからお年寄りまで、地域の皆様と共に生きる地域密着の運営を日々行っています。すべての利用者の方のケアニーズに応えられるよう、専門性と質の高いサービスを提供出来るように心がけております。

特別養護老人ホーム 「東四つ木ほほえみの里」
地域包括支援センター東四つ木・立石分室

特別養護老人ホーム：123ベッド
ショートステイ：7ベッド

特別養護老人ホームとは、常時介護を必要とし、在宅での生活が困難な高齢者に対して、生活全般の介護を提供する施設です。平成10年開所以来、利用者が安心して生活できるように、ふれあいを大切にしています。

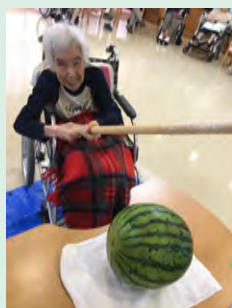
地域包括支援センター東四つ木・立石分室は平成18年より葛飾区から事業を委託されています。通称名「高齢者総合相談センター」として、より区民にわかりやすく身近な相談窓口として活動しています。

■TOPICS

すいか割り大会では大きなスイカを目の前に歓声が飛び交い、スイカが割れた際には甘い香りが食堂全体に広がりました。

ほほえみの里は開設25周年を迎えることができました。昼食のお祝い膳に皆様大満足されておりました。

地域のお祭りが再開され、地域包括支援センターブースを出展しました。地域の方と顔の見える交流ができました。



認可保育園（夜間保育所）「白鳥ふたば保育園」

東京都・葛飾区 定員：36名

0歳児から5歳児まで1クラス6名ずつの小さな保育園です。3歳から5歳児クラスは異年齢保育を実施し、夜間保育のお子さんには美味しい夕食を提供しています。

■TOPICS

最初は恐る恐る歩き出し裸足に慣れてくると、足踏みやジャンプをして歓声を上げながら水遊びを楽しんでいました。

玉ねぎの皮をコツコツ集め、染めてリストバンドを作りました。幼児クラスは身につけて親子レクリエーションに参加しました。

待望の雪に大喜びの子ども達。「雪だるま作ろう」と張り切ったものの、みぞれまじりの雪はすぐ溶けてしまいました。



学童保育クラブ

(葛飾) 松上学童保育クラブ70名 第二松上学童保育クラブ70名
上小松学童保育クラブ55名 第二上小松学童保育クラブ45名
木根川学童保育クラブ60名
(千代田) アフタースクールさくら65名 アフタースクールさくら第二45名
アフタースクールこうじ町50名

葛飾区に5学童、千代田区は3学童と放課後子どもプラン（放課後子ども教室）の事業を受託・運営しています。放課後の子どもたちの居場所として安全・安心に過ごすことのできる環境を提供しています。小学校の校庭などを使い、自由に遊ぶことができ、多彩な行事も企画しています。

■TOPICS

5年振りとなる遠足に行きました。日常とは違う場所で過ごすお友だちとの1日はかけがえない時間となりました。

暑い夏に負けないようにみんなで水あそびを楽しみました。

クリスマス工作でふわふわ毛糸を使ったデスクトップツリーを作りました。



2023年度決算書類

法人単位資金収支計算書（抜粋版）
（自）令和5年4月1日（至）令和6年3月31日

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支	収入			
	事業活動収入計(1)	2,932,251,863	2,966,685,038	△34,433,175
	支出			
	事業活動支出計(2)	2,777,463,675	2,706,217,344	71,246,331
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	154,788,188	260,467,694	△105,679,506
施設整備等による収支	収入			
	施設整備等収入計(4)	1,636,000	2,006,000	△370,000
	支出			
	施設整備等支出計(5)	21,890,702	22,107,790	△217,088
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△20,254,702	△20,101,790	△152,912
その他の活動による収支	収入			
	その他の活動収入計(7)	13,630,428	14,879,689	△1,249,261
	支出			
	その他の活動支出計(8)	182,381,988	239,893,229	△57,511,241
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△168,751,560	△225,013,540	56,261,980
	予備費支出(10)	689,278	—	
		0		
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△34,907,352	15,352,364	△50,259,716
	前期末支払資金残高(12)	925,587,744	925,587,744	0
	当期末支払資金残高(11)+(12)	890,680,392	940,940,108	△50,259,716

法人単位事業活動計算書（抜粋版）
（自）令和5年4月1日（至）令和6年3月31日

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	サービス活動収益計(1)	2,940,702,272	2,841,452,037	99,250,235
	費用			
	サービス活動費用計(2)	2,769,707,413	2,672,920,245	96,787,168
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	170,994,859	168,531,792	2,463,067
サービス活動外増減の部	収益			
	サービス活動外収益計(4)	25,982,766	20,866,376	5,116,390
	費用			
	サービス活動外費用計(5)	13,642,541	13,251,422	391,119
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	12,340,225	7,614,954	4,725,271
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	183,335,084	176,146,746	7,188,338
特別増減の部	収益			
	特別収益計(8)	4,339,522	21,680,400	△17,340,878
	費用			
	特別費用計(9)	12,196,902	28,145,966	△15,949,064
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△7,857,380	△6,465,566	△1,391,814
	税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	175,477,704	169,681,180	5,796,524
	法人税、住民税及び事業税(12)	0	0	0
	法人税等調整額(13)	0	0	0
	当期活動増減差額(14)=(11)-(12)-(13)	175,477,704	169,681,180	5,796,524
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(15)	1,733,580,229	1,685,926,000	47,654,229
	当期末繰越活動増減差額(16)=(14)+(15)	1,909,057,933	1,855,607,180	53,450,753
	基本金取崩額(17)	0	0	0
	その他の積立金取崩額(18)	5,000,000	16,437,540	△11,437,540
	その他の積立金積立額(19)	213,699,608	138,464,491	75,235,117
	次期繰越活動増減差額(20)=(16)+(17)+(18)-(19)	1,700,358,325	1,733,580,229	△33,221,904

法人単位貸借対照表（抜粋版）
令和6年3月31日現在

資産の部			
	当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,067,675,569	1,018,066,877	49,608,692
固定資産	3,651,683,851	3,548,470,761	103,213,090
資産の部合計	4,719,359,420	4,566,537,638	152,821,782
負債の部			
	当年度末	前年度末	増減
流動負債	205,331,614	166,272,443	39,059,171
固定負債	111,773,368	103,845,958	7,927,410
負債の部合計	317,104,982	270,118,401	46,986,581
純資産の部			
	当年度末	前年度末	増減
基本金	619,777,986	619,777,986	0
国庫補助金等特別積立金	1,285,920,720	1,355,563,223	△69,642,503
その他の積立金	796,197,407	587,497,799	208,699,608
次期繰越活動増減差額	1,700,358,325	1,733,580,229	△33,221,904
（うち当期活動増減差額）	175,477,704	169,681,180	5,796,524
純資産の部合計	4,402,254,438	4,296,419,237	105,835,201
負債及び純資産の部合計	4,719,359,420	4,566,537,638	152,821,782

本決算書類は「法人単位」のものであり、抜粋版です。
詳細は、各ウェブサイトをご覧ください。

